

ガラテヤ 9回
「キリストにあって一つ」
ー論理に基づく議論ー
ガラ 3：15～29

1. はじめに

(1) ガラテヤ人への手紙の位置づけ

- ①ガラテヤ地方の諸教会は、律法主義者の教えの影響を受けた。
- ②パウロは、律法主義者の教えに反論する必要を感じ、この書簡を書いた。

(2) ガラテヤ人への手紙のアウトライン

- ①個人的弁明：パウロの使徒職（1：1～2：21）
- ②教理的教え：信仰義認（3：1～4：31）
- ③実践的教え：キリスト者の自由（5：1～6：18）

(3) 文脈の確認

- ①3章から、ガラテヤ人たちに対する教理的教えが始まる。
 - *パウロは、旧約聖書から論じる。これが4章の最後まで続く。
 - *律法主義者たちは、旧約聖書の教えに従っていると自負していた。
 - *パウロは、彼らが誇りとしていた旧約聖書を用いて彼らを論駁する。
- ②3章の内容
 - *体験に基づく議論（1～5節）
 - *聖書に基づく議論（6～14節）
 - *論理に基づく議論（15～29節）
- ③今回は、論理に基づく議論（15～29節）を取り上げる。

2. メッセージのアウトライン

- (1) 契約の普遍性（15～18節）
- (2) 律法の目的（19～25節）
- (3) 信者の地位（26～29節）

3. 結論

- (1) アブラハム契約の内容
- (2) アブラハムの子孫の意味

論理に基づく議論について学ぶ。

I. 契約の普遍性 (15~18節)

1. 15~16節

Gal 3:15 兄弟たちよ、人間の例で説明しましょう。人間の契約でも、いったん結ばれたら、だれもそれを無効にしたり、それにつけ加えたりはしません。

Gal 3:16 約束は、アブラハムとその子孫に告げられました。神は、「子孫たちに」と言って多数を指すことなく、一人を指して「あなたの子孫に」と言っておられます。それはキリストのことです。

(1) パウロは、律法主義者たちの反論を想定し、それに対する回答を用意する。

①彼らはこう反論するであろう。

*アブラハムが恵みと信仰によって義とされたことは、認める。

*しかし、その後与えられた律法により、義とされる方法は変更された。

②そこでパウロは、「人間の例」を用いて説明する。

③「人間の例」とは、ローマ法の慣習のことである。

(2) ローマ法では、一度結ばれた契約は、無効にしたり、何かを付け加えたりはできない。

①人間の契約が不変だと言うなら、神の契約はもっとそうである。

②アブラハムとその子孫に与えられた約束は、律法が与えられる前に成就したわけではない。

③律法が与えられた時点で、その約束は依然として有効であった。

④つまり、律法によって神の約束が変更されることはないのである。

(3) アブラハムとその子孫に与えられた約束は、キリストにあって成就した。

①「あなたの子孫に」は単数形であり、キリストのことである。

②「子孫」はギリシア語で「スペルマ」、ヘブル語で「ゼラ」である。

*この言葉は、文字通りには「種」であり、比喩的には「子孫」である。

*この言葉は単数形であるが、集合名詞として「子孫」を指す場合もある。

*この言葉が単数形であることを基に、パウロはそれをキリストに適用。

③マタイ 1:1 は、キリストがアブラハムの子孫であることを記している。

Mat 1:1 アブラハムの子、ダビデの子、イエス・キリストの系図。

④キリストは永遠のお方なので、キリストにあって成就した約束も永遠である。

*つまり、信仰によって義とされることは、永遠の約束である。

2. 17~18節

Gal 3:17 私の言おうとしていることは、こうです。先に神によって結ばれた契約を、その後四百三十年たってできた律法が無効にし、その約束を破棄することはありません。

Gal 3:18 相続がもし律法によるなら、もはやそれは約束によるものではありません。しかし、神は約束を通して、アブラハムに相続の恵みを下さったのです。

- (1) 神がアブラハムと結んだ契約は、430年後にできた律法の影響を受けない。
 - ①430年は、ヤコブとの契約の更新から数えてのことであろう(創 46:1～4)。
 - ②出 12 : 40

Exo 12:40 イスラエルの子らがエジプトに滞在していた期間は、四百三十年であった。

- (2) 相続は、約束によるか、律法によるかのいずれかである。
 - ①神が与えた相続の恵みは、約束による。
 - ②相続の恵みとは、恵みと信仰による救いのことである。

II. 律法の目的 (19～25 節)

1. 19～20 節

Gal 3:19 それでは、律法とは何でしょうか。それは、約束を受けたこの子孫が来られるときまで、違反を示すためにつけ加えられたもので、御使いたちを通して仲介者の手で定められたものです。

Gal 3:20 仲介者は、当事者が一人であれば、いません。しかし約束をお与えになった神は唯一の方です。

- (1) ここでもパウロは、律法主義者たちの質問を想定して回答を提供している。
 - ①律法が救いを提供しないなら、シナイ契約でなぜ律法が与えられたのか。
- (2) パウロは、律法の目的と性質を説明する。
 - ①律法は、違反を示すためにつけ加えられた。
 - * 律法は、罪を指摘する。
 - * 罪を犯した者の上に、神の怒りが留まる。
 - ②律法は一時的であり、メシアが来られるまでの間だけ機能するものである。
 - ③律法は、約束よりも劣っている。
 - * 約束は、神が直接アブラハムに与えたものである。
 - * 律法は、仲介者（モーセ）を通して制定されたものである。
 - * 実際は、2種類の仲介者がいた。
 - ・ 天使たちは神を代表し、モーセはイスラエルの民を代表した。
- (3) 20 節の訳は、新共同訳が分かりやすい。

Gal 3:20 仲介者というものは、一人で事を行う場合には要りません。約束の場合、神はひとりです。事運ばれたのです。（新共同訳）

- ①アブラハム契約は片務契約である。
- ②神だけが責任を負う。
- ③それゆえ、仲介者は不要である。

2. 21～22節

Gal 3:21 それでは、律法は神の約束に反するのでしょうか。決してそんなことはありません。もし、いのちを与えることができる律法が与えられたのであれば、義は確かに律法によるものだったでしょう。

Gal 3:22 しかし聖書は、すべてのものを罪の下に閉じ込めました。それは約束が、イエス・キリストに対する信仰によって、信じる人たちに与えられるためでした。

(1) 次に想定されている質問は、律法と神の約束は矛盾するのか、である。

- ①パウロは、「決してそんなことはありません」と答える。
- ②ギリシア語の「メイ・ゲノイト」は、強意の否定である。
- ③約束と律法には、それぞれ異なった目的がある。

(2) 律法の目的は、いのちを与えることではない。

- ①理論的には、律法を完全に守れるなら、律法による救いは可能である。
- ②しかし、律法を完璧に守れる人はいない。
- ③ロマ 8：3～4

Rom 8:3 肉によって弱くなったため、律法にできなくなったことを、神はしてくださいます。神はご自分の御子を、罪深い肉と同じような形で、罪のきよめのために遣わし、肉において罪を処罰されたのです。

Rom 8:4 それは、肉に従わず御霊に従って歩む私たちのうちに、律法の要求が満たされるためなのです。

④申命 8:1 は、律法を守ろうと努力する人に地上生活の祝福を約束している。

Deu 8:1 私が今日あなたに命じるすべての命令を、あなたがたは守り行わなければならぬ。そうすれば、あなたがたは生きて数を増やし、【主】があなたがたの父祖たちに誓われた地に入って、それを所有することができる。

(3) 律法は、福音への道を用意した。

①律法によって罪を示された人は、呪いの下に置かれる（ロマ 3：23～24）。

Rom 3:23 すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、

Rom 3:24 神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いを通して、価なしに義と認められるからです。

3. 23～25 節

Gal 3:23 信仰が現れる前、私たちは律法の下で監視され、来たるべき信仰が啓示されるまで閉じ込められていました。

Gal 3:24 こうして、律法は私たちをキリストに導く養育係となりました。それは、私たちが信仰によって義と認められるためです。

Gal 3:25 しかし、信仰が現れたので、私たちはもはや養育係の下にはいません。

(1) 次にパウロは、2つの例を用いて律法の役割を解説する。

①牢獄の例

*キリストの到来まで、私たちは律法に監視され、閉じ込められていた。

*ここでの「私たち」とは、ユダヤ人たちである。

②養育係の例

*律法は、私たちをキリストに導く養育係となった。

*信仰による義を獲得するためである。

*キリストが現れたので、私たちは養育係の下にはいない。

III. 信者の地位 (26～29 節)

1. 26～27 節

Gal 3:26 あなたがたはみな、信仰により、キリスト・イエスにあって神の子どもです。

Gal 3:27 キリストにつくバプテスマを受けたあなたがたはみな、キリストを着たのです。

(1) 主語が、「あなたがた」に変化している。ガラテヤの信徒たちのことである。

①信仰義認の説明が、ここでクライマックスを迎える。

②信仰は、3つの変化をもたらす。

(2) 第1の変化：信者はみな、神の子どもとなった。

①信者は、「キリスト・イエスにあって」神の子どもとなった。

*「子ども」はギリシア語で「ヒュイオス」（複数形ヒュイオイ）である。

*キリストにある成人、息子・娘である。

*律法が養育係であったときは、未成年であった。

②キリストを信じた人は、聖霊によりバプテスマされた（キリストと一体化）。

③「キリストを着た」とは、キリストが与える義の衣を着たということである。

*ローマ社会では、15歳になるとトーガの着用を許された。

*トーガは、その家の息子としての特権を引き継いだことを示すしるし。

2. 28 節

Gal 3:28 ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由人もなく、男と女もありません。あなたがたはみな、キリスト・イエスにあって一つだからです。

(1) 第2の変化：信者はみなキリスト・イエスにあって一つとされた。

①ユダヤ人は、こう祈っていた。

*「私は、異邦人もなく、奴隷でもなく、女でもないことを感謝します」

②パウロは、この祈りを前提に、キリストにある一致を教えている。

③信者の間に、靈的格差はなくなった。

*ユダヤ人信者と異邦人信者の区別はない。

*奴隷の信者と自由人の信者の区別もない。

*男性の信者と女性の信者の間の区別もない。

④信者はすべて同じ靈的特権と地位に与っている。

3. 29節

Gal 3:29 あなたがたがキリストのものであれば、アブラハムの子孫であり、約束による相続人なのです。

(1) 第3の変化：信者は、アブラハムの子孫であり、約束による相続人となった。

①パウロは、アブラハムの子孫とはキリストのことだと論じた（16、19節）。

②信者はキリストと一体化した（キリストを着た）。

③それゆえ、信者はアブラハムの子孫の一部となった。

④信者は、アブラハムとその子孫に与えられた約束の相続人となった。

結論：

1. アブラハム契約の内容

(1) 創12:1~3

Gen 12:1 【主】はアブラムに言われた。／「あなたは、あなたの土地、／あなたの親族、あなたの父の家を離れて、／わたしが示す地へ行きなさい。

Gen 12:2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、／あなたを祝福し、／あなたの名を大いなるものとする。／あなたは祝福となりなさい。

Gen 12:3 わたしは、あなたを祝福する者を祝福し、／あなたを呪う者をのろう。／地のすべての部族は、／あなたによって祝福される。」

①土地の約束

②子孫の約束

③祝福の約束

*この約束だけが、異邦人にも与えられる。

(2) 創 15 章で、正式な契約締結の儀式が行われた。

- ① アブラハムは、深い眠りに襲われた。
- ② 切り裂かれた物の間を、煙の立つかまどと燃えているたいまつが、通り過ぎた。
- ③ 神だけが責任を持つ片務契約である。
- ④ 人間の側の失敗によって、無効になる契約ではない。
- ⑤ これを無条件契約と言う。

2. アブラハムの子孫の意味

(1) ガラ 3 : 29

Gal 3:29 あなたがたがキリストのものであれば、アブラハムの子孫であり、約束による相続人なのです。

- ① この聖句を根拠に、教会は霊的イスラエルであると主張する人がいる。
- ② この立場を、置換神学を呼ぶ。
- ③ しかしこれは、ここでの文脈を無視した自分勝手な解釈である。

(2) アブラハムの肉の子孫は、ヤコブから出たイスラエルの 12 部族である。

- ① この肉の子孫の中に、少数の真の信仰者（レムナント）がいる。
- ② 彼らは、肉のイスラエルの中にいる霊的イスラエルである。
- ③ 彼らは、アブラハムの霊的の子孫である。

(3) アブラハムの肉の子孫でない者たち（異邦人）の中から、信仰者が出る。

- ① 彼らもまた、アブラハムの霊的の子孫となる。
- ② 彼らは、信仰による義認を受け、3つの変化を体験する。

(4) イスラエルと教会は、別のグループである。

- ① 神は、それぞれのために計画を持っておられる。
- ② 教会が携挙されると、イスラエルに対する計画が成就に向けて動き始める。